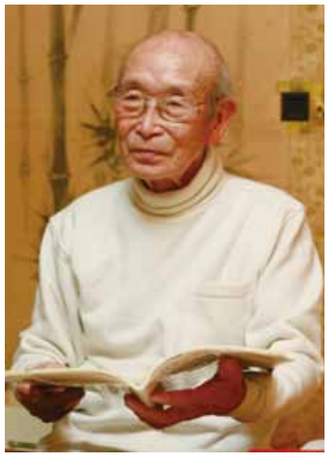
感謝を込めて歌い上げたい



15年連続皆勤で第九に挑戦

小林　笙童さん　86歳
大友町一丁目

交響曲第9番ニ短調（ベートーベン作曲）の合唱を行うために、毎年結団される前橋第九合唱団（6㌻）。この合唱団の最高齢者で、15年間一度も休まず練習に参加している。

「これまで活動してこられたのは、周りの支えがあってこそ。それに、若い人たちと大きな声で歌うと元気が湧いてきて、何度も挑戦したい気持ちになります」

昭和30年から尺八をはじめ、邦楽一筋だった。第九との出会いは23年前。勉強のつもりで合唱団に参加したのが始まり。

「和洋の違いはありますが、音楽は共通点が多くどれも勉強になります。学生のころから歌が好きだったことや、仲間にも恵まれたことで、どんどん第九に熱中していきました」

現在、県邦楽協会本部常任理事や市文化協会邦楽部会長などを兼任。県内だけではなく、全国でも邦楽関係の活動に従事するほか、地元の混声合唱団でも活躍するなど、多忙な毎日を送っている。

「忙しいのも元気の秘訣。それに、周りの人に感謝しながら生きてきた母の姿を見て、私もそうありたいと思って生きてきました。周りの皆さんのお役に立てることこそ私の生きがいです」

12月8日㈰、前橋第九合唱団の演奏会がベイシア文化ホールで開催される。

「私は低音のバスパートで出演します。日本一の合唱団と言われるように、しっかりと歌い上げたいですね」

日頃の感謝を「歓喜の歌」に変えて、これからも高らかに歌い続けてほしい。

赤城の恵ブランド

前橋市長100点満点之太鼓判

vol. 5

もち屋伝次平のもち

空っ風の吹く赤城山麓の前橋で、妥協を許さず、手間を惜しまず、生産者が丹精して作った「赤城の恵ブランド」。今回は「もち屋伝次平のもち」を紹介します。

■こだわりの餅に挑戦

上川淵地区で、昔から続いた米作り。自家用のもち米でついた餅を配ったところ、評判が良かったので、食品添加物や保存料を一切使わない餅作りを決意。自社栽培のもち米である群馬糯5号を100㌫使い、自動きねつき機でつかれた餅を丁寧に仕上げました。

■バリエーション豊かに

多くの人に餅を食べてもらうため、基本となる「白切りもち」の他に、梅干に入れたシソの葉を練り込んだ「紫蘇の餅」、県産桑の葉を焙煎し、粉末にして餅に練り込んだ「桑の餅」、絹糸を食品用にパウダーにしたものを練り込んだ「絹の餅」など、「絹都前橋」になぞらえた商品も販売しました。

ふっくらと焼き上がります

■宅配での販売にも対応

後閑町の自社直売所や市内量販店で販売するほか、宅配にも対応。商品がなくなる5月頃まで販売しています。価格は、白切りもちが300円、紫蘇・桑の餅が350円、絹・玄米の餅が400円（各6枚入り）です。

■健康・栄養

もち米のでんぷんは、ほとんどがアミロペクチンです。これは、餅の粘りの成分。蒸してつくことでより粘りが強くなります。餅は少量でも多くの糖質が摂れるため即効でエネルギーになり、腹持ちのよい食品でもあります。

■生産者からのメッセージ

田んぼの土作り、田植え後の水管理など、毎日の作業の積み重ねで、おいしいお米が育つと思い作業しています。今後も、自然の恵みに感謝しながら、おいしさを皆さまに届けたいと思います。

問い合わせは
ヤバタファーム☎027-265-1315

クローズアップ CLOSE-UP

頑張る群馬の中小私鉄が集結

上毛電鉄大胡駅電車庫で11月10日、上毛電鉄、わたらせ渓谷鉄道、上信電鉄を応援する中小私鉄フェアを開催しました。デハ101臨時運行や電気機関車試乗会などのイベントや、ジオラマなど電車にまつわる展示がそろい踏み。子どもたちを引き付けていました。

子どもたちが詩を朗読

11月９日、前橋テルサで「詩のまち前橋若い芽のポエム」の贈呈式と朗読会を開催しました。賞状などの贈呈に続き、入賞した小学生から高校生まで49人が入賞作品を朗読。みずみずしい若い感性があふれる作品の数々に、参加者は聞き入っていました。

学校の文化活動を披露

11月９日・10日に前橋プラザ元気21で「まえばし学校フェスタ2013」を開催しました。市内小中特別支援学校と市立前橋高の児童生徒が、日頃学校で行っている文化活動を発表。ステージでの堂々とした演奏や合唱、発表に大きな拍手が送られていました。

友好都市を訪問し交流深める

10月28日から11月２日まで、本市と友好都市である米国バーミングハム市への視察を行いました。友好都市提携15周年という節目の年に実施したもので、歴史遺産や博物館などを訪問。「ころとん」グッズをプレゼントするなど、両市の交流を深めました。